

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2770901193		
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会		
事業所名	グループホームともしび		
所在地	大阪府高槻市安岡寺町6丁目5番14号		
自己評価作成日	平成 26年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 12月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvCd=2770901193-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 11月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の豊かな環境に恵まれた当施設では、穏やかな時間が流れ、安心して生活して頂けるよう、思いやりのある寄り添う介護を行っています。生活の中に学習療法を取り入れ、又、生活リハビリにも工夫する事により、コミュニケーション力の向上や活性化に繋がっています。ほとんどの職員が、認知症サポーターの研修を受け、施設の入居者様だけでなく、地域にも貢献出来るよう、自覚を持って、日々行動しています。又、ご家族様だけでなく、見学に来られた方の、困り事や介護に関する質問・相談にも、親身になってお答えし、地域に開かれた施設になるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームや診療所、各種の介護保険サービス事業を行っている社会福祉法人が運営するグループホームで、ホーム周辺は雑木林や川など自然に恵まれた環境にあります。自然体な笑顔で利用者に接する職員はチームワークが良く一体感があり、行政との連携、家族や地域のボランティアの協力を得ながら、利用者一人ひとりの思いや希望に沿った思いやりのあるケアをしています。利用者は医療環境に生まれ、優しく有能な職員に囲まれ、ゆったりと会話と笑いのある生活をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人理念である“私達は「毎日が敬老の日であり、こどもの日である」ことを願い、地域の福祉増進に努めます。”を念頭に置き、ホームの理念である「いつでも、どこでも、その人らしく、最後まで」を共有し、入居者様に家庭的な環境と馴染みの関係作りに努めています。	法人理念である『私達は「毎日が敬老の日であり、こどもの日である」ことを願い、地域の福祉増進に努めます』を念頭に置き「いつでも、どこでも、その人らしく、最後まで」をホームの理念と定め、明示しています。定例のグループホーム事務所会議や、毎日の業務を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月定期的に地域の方がボランティアで来館され、ご入居者の皆様楽しんで頂いています。 ・散歩時は、地域の方に挨拶をしたり、気軽に声を掛けてもらっています。 ・地域のスーパーに定期的に、おやつの買い出しなどに出掛けています。 	ホームでは、毎月ギターやオカリナ、三味線等の楽器演奏をはじめ、散歩ボランティア等のさまざまなボランティア訪問があり、利用者と職員の楽しい時間を設けています。散歩や買い物等の際には、顔見知りの方々と気軽に挨拶や声をかけあう等、日常的に地域の一員として交流しています。また、「認知症サポーター養成講座」を全職員と一部の利用者家族が受講しています。市が主催する「認知症徘徊模擬訓練」には、地域住民・利用者家族とともに参加しています。「認知症～学ぶ・気づく・つながる～」のイベントでは、市内のグループホームと協力して相談窓口を設置し、作品ブースには利用者の習字や貼り絵等を展示する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会への参加や認知症地域支援推進委員主催の連絡会へ積極的に参加し、グループホームでの取り組みや研修で学んだ事を活かし、活動しています。 ・認知症ケア専門士などの資格も取得し、認知症の人への理解も深めています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回、概ね2ヶ月に1回開催しています。 ・会議では地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民の代表、家族様、入居者様に参加頂き、毎回貴重な意見を頂いています。 	<p>運営推進会議は、概ね2カ月に1回開催し、利用者・家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・第三者委員が参加しています。会議では、利用者の生活状況やホームの活動状況等を詳細に報告し、意見や要望を得ています。</p>	<p>今後は、運営推進会議の議事録を全家族に配布する等、利用者家族とも情報を共有できるよう、検討されてはいかがでしょうか。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を定期的に頂いています。 ・課題が判明した時には、その都度連絡、相談し、適切なアドバイスを頂いています。 ・市が行う「認知症イベント」や「徘徊模擬訓練」にも参画、協力しながら、施設での支援にも活かしています。 	<p>管理者は、市担当者と定期的に交流するよう心掛けており、運営上での問題報告や相談、情報交換に努めて協力関係を築いています。管理者や職員は、地域密着型事業者連絡会や認知症サポーター研修、徘徊模擬訓練など、市の主催する行事に参加し、家族の会の行事にも参加して交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいます。また、市の介護相談員を受け入れています。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に研修を行い、職員全員が身体拘束による弊害や身体拘束禁止の対象となる代表的な11の行為を理解しています。 ・ホームでは身体拘束・抑制は絶対に行わない方針を掲げています。 ・玄関は基本的に日中の時間帯は開錠しています。 	<p>身体拘束のないケアに取り組んでいます。日中の時間帯は、玄関扉を開錠しています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。職員は法人が実施する人権の研修や、ホーム内部研修の身体拘束廃止について研修を受け、意識の向上に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止マニュアルに基づき、日常より防止の徹底に努めています。 ・高槻ともしび苑の各部署職員で構成されている衛生委員会では、職員のストレス軽減に向けた取り組みも行っています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が行う「人権研修」を、職員は毎年受講しています。 ・成年後見制度については、パンフレットを閲覧出来る場所に設置しています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約前、退居前に入居者様、家族様にお話を伺い、「申し込みの手引き」により十分な説明を行い、少しでも不安のないように努めています。 ・契約時には重要事項説明書にて説明し、ご理解、ご納得を頂いています。 ・改訂等があった際には、家族会等で説明を行い、同意書を頂いています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施している家族懇親会(アンケートも実施)では全体会と1階、2階での分科会を設け、家族様からの意見が聞き取りやすい環境設定をしています。頂戴したご意見等は、運営推進会議等でも報告しています。 ・日常的には目安箱を設置し、意見等伝えやすい仕組み作りにも努力しています。 ・介護サービス計画もご本人を交え、家族と話し合い、意見、思い等を反映させるよう努めています。 	利用者家族の訪問時以外にも、家族会を年2回開催しています。また、アンケート調査も年に1回実施する等、利用者家族の思いや意見、要望を積極的に聞き取り、運営に反映しています。利用者家族より、「ホームの行事予定を事前に知りたい」との要望を受け、今後の行事予定2ヵ月分を文書にし、配布をした事例があり、現在も継続しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回定期的に開催している事務所会議にて意見交換の場を設けています。 ・日常的にも問題点等は話し合い、職員全員で考え、解決策へと導いています。 ・「気づきメモ」を職員が気軽に書けるようにし、月単位で情報を取りまとめ、職員で共有し、事故やヒヤリハットを未然に防ぐように図っています。 	職員は、定例のグループホーム事務所会議や日常の業務を通じて、意見や提案をする機会があります。また、職員間で「報連相ノート」や「気づきメモ」を徹底しながら情報を共有し、チームワークよく一体感をもって笑顔で利用者のケアにあたっています。管理者は、職員との個人面談も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員に対し、努力・実績に見合った給与の見直しを、年1回行っています。 ・職員との個人面談も実施し、職員の意見も聞きながら、職場環境の改善に努めています。 		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に法人研修や内部研修を行い、積極的な参加を促しています。 ・外部研修に関しては、職員の希望も踏まえながら、大阪府社会福祉協議会や認知症グループホーム協会が主催する研修に参加出来る体制となっています。 		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣のグループホームや社会福祉施設、居宅介護支援事業所等と、定期的な情報交換を行い、連絡会や家族の会などにも職員が参加出来る機会を設けています。 ・同一法人の飛鳥ともしび苑グループホームとも定期的に情報交換を行っています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・突然の環境変化で、入居当初は不安になられる事も少なくありません。ご本人の生活歴等、家族様より情報提供して頂き、それらを職員間で参考にしながら、安心出来るコミュニケーション、傾聴に多くの時間を取るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族様の要望や疑問点等を傾聴し、ご本人や家族様のニーズをしっかりと把握し、安心してグループホームでの生活が送れるよう、家族様にも協力をお願いし、早く信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービス導入時には、これまでに利用されていた他のサービス提供機関から、より詳細な情報を聴取し、それらを参考に、何が必要か、何を望まれているかを、ご本人、家族様、職員間で話し合い、インフォーマルの支援を含む援助体制を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・生活していく上で、食事の準備や後片付け、洗濯物干し・たたみ、掃除等を職員と一緒にすることにより、それぞれが残存能力を発揮し、達成の喜びや協調性も養われ、生きる喜びへと繋がっていく関係を大切にしています。 ・しかし、高齢化に伴い、ADLの低下による身体的介護に時間を取られるようになって来たのが現状です。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との絆はとても大切にしたいものです。家族様には、面会や外出、行事等、自由に出入りして頂いています。 ・年2回の家族会、2カ月に1回の運営推進会議等、ご本人を中心に職員、家族が協力しながら支えていく関係を継続しています。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅への外出・外泊が自由に行われ、墓参り、食事会等々楽しまれています。 ・古くからの友人や自宅の近所の方々の面会も積極的に受け入れています。 ・家族の月命日には自宅に帰り、在宅の際と同じように馴染み人や場所等の関係継続の支援に努めています。 	職員は、利用者が家族の月命日に自宅へ帰って法事を行ったり、家族と食事会を行ったりすることを支援しています。また、古くからの友人や併設するデイサービスを利用する友人が、ホームを訪ねて来やすいよう配慮して、利用者が大切に思う、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入居者様の性格や相性を見極め関わっています。 ・特技や趣味を活かし、全員参加の全体レクリエーションや生活リハビリ等を生き生きと楽しんでいます。 		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居された方や、亡くなられた方の家族様がボランティアの音楽等で入居者様を楽しませて下さっています。 ・退居された方や家族様からご相談があれば、支援させて頂いています。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・常に入居者様の訴えを傾聴し、困難事項の場合は、計画作成担当を交え、話し合いの場を設けています。 ・職員間ではケアカンファレンス時や、日常の報連相で情報を共有し、支援経過記録に残し、問題点の把握、解決に取り組んでいます。 	<p>利用者の思いや意向の聞き取りに努め、前回の外部評価以降「気づきメモ」を新しく作成し、「報連相ノート」とともに職員間で情報を共有するためのツールとして役立てています。</p>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居される前に、家庭訪問をして、事前の状況を把握し、ご本人や家族様からも、これまでの生活歴や好き嫌いなどの聞き取りを行い、サービス計画へ反映させています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者様の安全安心な生活の為に、毎朝、昼食後、夕方の報連相はとても大切にしています。特に夜勤者から日勤者への報連相は、誤解がないよう、正確にノートに記録するよう伝達しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画は定期的に6ヶ月毎に、又状況の変化がある時は、その都度見直しを行っています。 ・介護職員は「個別支援経過記録」で介護計画の支援内容を、毎日モニタリングしています。 ・ケアマネジャーは、支援経過記録や、毎月1回のケアカンファレンスを基に、3ヶ月毎にモニタリングを行い、ご本人、家族様と職員とでの担当者会議を実施し、介護計画を決定しています。	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。職員は、「個別支援経過記録」で介護計画の支援内容を毎日モニタリングしています。ケアマネジャーは、支援経過記録や月例のケアカンファレンスの結果を踏まえて、3ヶ月毎にまとめのモニタリングを行い、家族を交えて担当者会議を開催し、介護計画の作成につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の健康状態や様子などは、毎日個別に「支援経過記録」に記録し、日常と異なる場合や気付いた事は、職員間で共有し、すぐに対応出来るようにしています。 ・定期的にケアカンファレンスを開き、気付いた事を意見として出し合い、介護計画の実践や見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・状況の変化に応じ、既存のサービスの他に、インフォーマルサービスを検討、協力をお願いしています。 ・今後入居者様の重度化に伴い、居場所の方向性をどうしていくのか、大きな課題となっています。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の買い物デーでは、スーパーへ出掛けたり、定期的なボランティアさんとのふれあいがあり、また外食デーには地域の社会資源を利用し、地域の方と話が弾む姿も見られます。 		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員がかかりつけ医としている併設診療所の内科医師より、月1回の往診を受けています。 ・診療科目によっては、入居前からのかかりつけの医療機関を引き続き受診し、必要に応じて通院介助も行っています。 ・協力総合病院と連携し、夜間や急変時の対応体制も整備しています。 	大半の利用者がかかりつけ医としている併設診療所の医師より、月1回の往診を受けています。入居以前からかかりつけの医療機関を受診している利用者や、他の診療科目を受診する時には、必要に応じて職員が通院介助を行っています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・併設の診療所看護師には往診時に、医師の指示による処置等をお願いしています。 ・常時、入居者様の変化や気づきを報告、相談しています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関とは連絡を取り合い、情報交換するようにしています。 ・入居者様の入院時には、計画作成担当者が病院へ出向き、ケースワーカーや病棟看護師に経過を尋ね、家族様とも連絡を取り合い、状況の確認などを行っています。 ・退院時には再入居に備え、病院内で担当医師を交え、担当者会議を実施しています。 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期支援については、入居者様や家族様の希望を第一と考えています。状況に応じて対応出来る事、出来ない事を明確にし、主治医や医療機関の意見も聞きながら、場合によっては次の居場所について責任を持って紹介する事で、家族様の了解を得ています。 ・現在のところ、当グループホームでは、終末期の介護は実施しておりません。 	看取りについては、利用者の入居の際、状況によって法人全体で対応することを家族に伝え、了承を得ています。今後、利用者が重度化した場合、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。また、医師との連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、家族や利用者、医師、看護師と話し合いながら対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時マニュアル、事故発生時マニュアルを作成し、緊急連絡網を整備し職員全員が救命救急講習を受け、緊急時に備えています。 ・急変時や事故発生時の対応は、管理者、計画作成担当者を中心に、日々話し合いを行っており、併設診療所看護師とも密に連絡を取り合っています。 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策用マニュアルを設置し、年2回様々な災害を想定し、防災避難訓練を行っています。職員全員がどんな場面に遭遇しても対応出来るように、研修も行っています。 ・災害時の食料と水、衛生用品等、備蓄を実施。賞味期限等、定期的に点検、補充しています。 	年2回、防災避難訓練を実施しています。今年は1月と7月に自主避難訓練を実施し、また職員全員が消防署の救命救急訓練も受講しています。この12月には、消防署立会いで避難訓練を実施する予定です。ホームでの災害時における、食料と水の備蓄についても実施しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉現場に適した接遇を身に付ける為に、毎年法人主催による接遇研修が行われ、職員全員が受講し、介護現場での対応に活かしています。 ・プライバシー保護マニュアルを基に、入居者様は人生の先輩であるという事を念頭に置き、入居者様の自立と尊厳が保てるような声掛けや対応を考えて接しています。 	職員は、明るく丁寧な言葉かけや態度を心がけ、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮した上で接しています。人権や接遇については、研修計画に従って研修を実施し、職員の意識向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の訴えを傾聴し、思いを受け止め、納得して頂ける支援を行っています。 ・学習療法を取り入れ、コミュニケーションや自己表現の向上を目指しています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様一人ひとりの個性に添った生活ペースに合わせ、時には見守り、時には声をかけ、柔軟な対応を心掛けています。 ・その人の得意な分野を、皆さんに披露して頂き、皆で認め合い、その人の意識の向上に努めています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定が出来る方は、おしゃれを楽しんで頂けるよう、意向を尊重し、自己決定が出来ない方は、職員がご本人の意向を確かめながら、共に考える支援をしています。 ・定期的に訪問美容師さんによる散髪を実施。入居者様はとても楽しみにされています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週に2回、重点的に入居者様と職員と一緒に食事を作っています。季節の材料の話や包丁を使って切る人、手でちぎる人、材料を炒める人、味見をする人、きれいに盛り付けをする人、それぞれの出来る事を活かしながら楽しい雰囲気づくりに努めています。 ・食事中は食事介助、見守りを主体に、職員は入居者様の横に座り、時には会話をしながら、食事を楽しんで頂いています。 	食事は、業者から調理済みの食材を取り寄せています。その内、週に2日の昼食は、利用者と職員と一緒に献立を作成して食材を発注し、調理しています。食事準備の風景は、利用者同士で野菜の下ごしらえを行い、調理経験のある利用者が炒め物を担当する等、利用者は一人ひとりの力を活かし、さまざまな役割を担当しています。職員は、介助や見守りが必要な利用者のペースに合わせてさりげなくサポートを行い、会話を楽しみながら楽しい雰囲気づくりに努めています。また、誕生日会のイベント食や外食会を開催しています。	季節の食材や味見の結果等について、利用者と食事について会話を楽しむためにも、職員は一人でも利用者と同じものを一緒に食す等、今後検討してはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事摂取と水分摂取量を把握し、記録しています。それらを職員間で共有し、個々の状態に応じた支援や、習慣に応じた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、一人ひとりに必ず声掛けし、歯磨きをして頂いています。ご自身で出来ない方は職員が付き添います。 ・入れ歯の方は週に1回洗浄剤にて清潔保持に努めています。また必要に応じて、訪問歯科受診を行っています。 ・本年は「歯っぴー歯科健診」を受け、その後のケアの指導や診療をきめ細かく実施しています。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様一人ひとりの排泄パターンを確認し、誘導しています。 ・失禁をされる入居者様の尊厳を大切に、さりげない誘導と更衣をお願いしています。 ・ADLの状況等でリハビリパンツ、パット等の使用もモニタリングしながら、常に布パンツへの移行を考えています。 	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。大半の利用者は、職員の声かけや誘導により、トイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・食材に食物繊維の多い野菜類や牛乳、ヨーグルト等、毎日摂取して頂いています。 ・散歩や軽体操、室内ウォーキングなどで、便秘予防に努めています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様は週3回の入浴を楽しんでおられます。入浴を好まれない場合でも工夫をしながら声掛けをして対応しています。 ・便失禁などで汚れている部分があれば、シャワー浴を勧めたりしています。浴室では職員との会話も弾んでいます。 ・しょうぶ湯・ゆず湯など季節の行事風呂も楽しんでもらっています。 	<p>利用者は、平均して週3回の入浴を楽しんでいます。入浴を好まない利用者にも工夫をしながら対応し、週1回は入浴ができています。しょうぶ湯・ゆず湯など、季節の行事風呂も楽しんでいます。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活リズムパターンがあるため、ご本人本位の援助をしています。 ・室内温度、湿度、物音等に気を配り、快適な生活空間作りを心掛けています。 ・昼食後の午睡を設け、午後からの生活の活性化に役立っています。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の説明書をファイル保管しており、常に用法等の確認をしています。 ・服用時は誤薬のないよう、服薬者名、服薬日時等を声に出して確認しています。 ・症状の変化については受診時、計画作成担当者が担当医師や家族様に情報提供し、相談しています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど、個々に合わせた役割を持って頂いています。 ・ボランティアさんや職員による行事や楽器演奏にも参加して頂き、楽しく生活出来るよう支援しています。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の体調に合わせ、気候の良い日には、散歩に出掛けています。 ・家族様にもご協力頂き、買い物や食事等の外出にも出掛けて頂いています。 ・月2回の買い物デーでは、おやつや買い物に出掛け、また花見や紅葉、外食会にも出掛け、季節の移り変わりを実感して頂いております。 	職員は、近隣の神社への散歩や買い物、散歩ボランティアとの外出等、利用者一人ひとりのその日の希望にそって、外出支援を行っています。また、利用者家族の協力を得て、利用者は買い物や外食等、日常的に外出しています。職員は、初詣やお花見等の外出行事について、利用者の五感刺激となり、季節の移りわりを実感する機会だと考え、支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は管理出来る方もおられました。が、現在は行事(買い物デー)事や、外食会のみに限られています。 ・家族様との外出、外泊時、お金を使われる場合もあります。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・電話は要望があれば取り次いだり、自ら電話をされたりします。携帯電話で、家族様と自由に話をされる入居者様もおられます。 ・年賀状は出来るだけ自筆で書いて頂くようにしています。 		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前ベンチで、季節の花を観賞しながらのティータイムや、外気浴をしながら食事を楽しまれたりしています。 ・ホーム内には、掘りごたつがあり、落ち着く空間になっています。 ・壁には写真や飾り付けを入居者様と職員が一緒に行っています。 ・開設より12年が過ぎた為、ハード面の課題も出て来ています。 	ホーム周辺は雑木林や川など自然に囲まれ、玄関口には植木や季節の花、ベンチやテーブルもあり、楽しい雰囲気があります。リビング兼ダイニングルームは広くて明るく、ソファやベンチ、椅子を配置し、掘りごたつや床の間のある座敷があり、ベランダの椅子やテーブルなど、利用者が落ち着ける居場所が沢山あります。季節感のある大型の貼り絵や手芸作品、家族会や花見などの行事写真も飾り、家具や調度品、雑誌や新聞、レクリエーション道具等が置かれ、華やかで楽しい雰囲気を感じさせる共用空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掘りごたつの和室で、テレビを観たり、休息を取られたりして、くつろがれています。 ・各居室は気の合った方が、自由に入りできる環境を心掛けています。 ・共有スペースにある椅子の配置にも工夫をしています。 		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れた馴染みのある物(タンス類、テレビ、写真、テーブル、椅子、お仏壇等)を持ち込んで頂き、落ち着き、安心出来る生活空間になっています。 ・認知機能の低下により、道具が危険に繋がる場合も考えられ、入居者様に応じた安全な空間を重視する必要があります。出て来ており、入居者様、家族様とも、よく話し合って決めています。 	<p>利用者は整理ダンス、飾り台、洋服や帽子のかかったハンガーラック、椅子、机、ソファ、人形ケース、仏壇、手作り作品、家族の写真、雑誌や書籍、携帯電話、観葉植物、刺繍など、使い慣れた馴染みのある物を居室に持ち込んでいます。家族の思いを感じ、利用者が安心して自由に過ごせる居室になっています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室の入り口に、ご本人の写真と表札を掲げ、自室が判りやすいようにしています。 ・建物内部は、安全かつ温かみのある木製の手すりを設けるなど、落ち着いた作りになっています。 ・個室である居室内には手すりを増やし、自立支援と安全面を強化しています。 		